

進路だより

第1号
宮城県高P連
進路対策委員
会発行

P T A 進路研修会

本校PTA進路対策委員会では、平成26年度から「PTA進路研修会」を開催しています。

もともとは、十一月に開催していたPTA行事（PTA進路研修旅行）でしたが、参加人数の減少により実施困難な状況になってきたため、より多くのPTA会員が参加できる行事として再企画されたものです。企画する上で考慮した点は、①遠出せず半日で終了できる企画であること
②全会員が参加しやすい内容と場所であること
③会員に有益な進路研修であることでした。そのおかげで、出席率ほどのPTA行事よりも高くなり、講演会では熱心に耳を傾ける姿が多く見られました。



しかし、開催当初は、研修旅行の開催時期にそのまま設定していたため、希望進路が決定していた三年生の保護者の保護者にとり、研修する必要がないものとなっていました。約60名（約60名）

反省を、その反響を受け、次年度からは前年度と同様に開催することとし、内容は前年度同様、全体会として「進路実現のた



めに」と題した講演を行い、その後に分科会として、①大学②専門学校③就職・公務員に分かれて研修を行いました。（約160名参加）

また、2・3学年は、せっかくなので、この研修会後に学年PTA総会を短時間で開催し、夏休み前に学校側から保護者に伝えたいこと（次年度科目選択や公務員試験・AO入試等の進路関係など）についての説明等を行いました。今年度の研修会では、全体会を止め、90分間の分科会のみにし、さらにコンパクトな内容に変更して行いました。（約150名参加）参加者からの感想は、ほとんどが肯定的で、進路研修会としての意義を十分果たせていると実感できるものが多くありました。

進路目標を親と一緒に考える夏休み

「自分の人生なんだから自分で考えなさい」「損するのは自分」

よくこのような言葉を耳にします。叱咤激励として使われる方が多くいますが、これだけでは子供を動かすことはできないようです。

昔と違って、多様な価値観が混在する現在、多くの子どもが自分に合った仕事に就くことを望んでいます。しかし、何が自分に合っているのか、世の中にはどのような仕事があるのか、そして、どのような仕事内容なのかからず悩んでいる高校生が多くいます。しかも、調べることもさえない者も多くいます。高校生と言えどもまだまだ未熟な存在です。大人が期待するような言動がとれない者も多くいます。しかし、何かきっかけを与えれば、自分で考えて行動できる存在でもあります。大人が知っている仕事や社会事情を正しく子どもにも伝えながら、将来について一緒に考えてあげることが、決して甘やかすではありません。きつとその子の自立を促すきっかけになります。

特に意見が食い違うときは、お互いの希望や価値観について早い時期から話し合う必要があります。ぜひこの夏休みを親子で話し合う機会にしてください。そして、夏休みだけに留まらず、今後も話し合いを積み重ねることで、子どもとの信頼関係を深め合い、お互いが納得できる進路目標を定めて下さい。

《うまく話し合えた例（保護者）》

○まずは子どもの意見を尊重して本人の考えを聞く聞き役に回り、一方的に親の意見を押しつけないよう心がけた。

○そのときに必要なサポートをよく考えた。

○いろいろバトルもしたが、お互いの意見を言い合うことで理解できるようになった。

○必ず朝食だけは家族全員で食べ、食べない場合も起こして顔だけは見るようにした。

《保護者に相談した例（子ども）》

○「知名度が低くてもいいから行きたいと思ったところに行きなさい」と言ってくれたので、気持ちが悪くなかった。

《うまいかなかった例（保護者）》

●受験情報を子どもに任せきりだったにもかかわらず、いろいろ口出しをしてストレスを与えてしまった。

●子どもが一方的に希望を言ってくるので、なるべくそれに合わせようとしてしまい、一方通行になってしまった。

《相談しなかった例（子ども）》

●親が情報を持っておらず、聞いてもわからなかった。

●自分の考えを押しつけるだけで相談にならない。

平成27年度 卒業生進路状況

	進 学						就 職	
	国公立大	私立大	国公立短大	私立短大	専各学校	看護系専門学校	公務員	民間企業
男子	1	55	0	0	17	6	7	2
女子	1	49	0	10	34	9	6	3
小計	2	104	0	10	51	15	13	5

※人数は延べ合格者数（3月31日現在）で、AO入試・推薦入試・一般入試すべて含みます。